



戦後80年 終戦記念日

1人ひとりが歴史を正しく次世代へつないでいこう！

8月15日、80年目の終戦を迎えました。しかし、国内外問わず戦争前夜と言えるような事態が後を絶ちません。国内では、「中国を意識した『戦う覚悟』発言する国会議員」や、『核武装が最も安上がりであり最も安全を強化する策の1つ』と発言して当選した国会議員が誕生しました。世界に目を向けると「ロシアによるウクライナ侵攻」や「イスラエルのガザ侵攻」など、未だに戦争は終わっていません。また、核兵器を所持することで、相手国の攻撃を思いとどまらせる考え方である「核抑止論」があたかも重要であるかのような状況です。

そのような中、広島県の湯崎知事は、8月6日に行われた平和祈念式典において「核抑止はフィクション」「抑止力とは、武力の均衡のみを指すものではなく、ソフト・パワー※や外交を含む広い概念であるはず」と、核保有国に対して力強いメッセージを送りました。

私たちは様々な形で戦跡を巡り、戦争体験者の声を生で聞き、同じ過ちを繰り返さないために、歴史の真実を学びました。そして、「平和は守るものではなく、1人ひとりがつくり出すもの」と実感してきました。戦争体験者が年々減少していくなか、歴史を正しく次世代へ「つなぐ」ことが、私たちの使命です。

※ソフト・パワー⇒相手国を軍事力で脅したりすることではなく、自国の文化や価値観、政策などで魅了・味方につける力のこと

**2度と同じような悲劇を繰り返さないために、
1人ひとりが考え、行動していこう！**